

# 1. 調査の概要

# 1 . 調査の概要

## 1 調査の目的

大井町では、平成13年度を初年度とする第4次総合計画「夢おい21プラン」に基づいたまちづくりを推進してきた。そしてこの計画を見直し、平成23年度を初年度とする第5次総合計画を策定する。

このアンケートは第5次総合計画の策定にあたり、町民の方々の意見や希望を把握し、計画策定に反映させることを目的に実施した。

また、同じアンケートを町職員においても行い、計画策定に活用する。

## 2 調査方法

	【住民アンケート】	【職員アンケート】
対象地域	大井町全域	大井町役場
対象者	全町民（16歳以上の男女）	全職員
母集団	18,123人 （平成21年8月31日現在）	156人 （平成21年4月1日現在）
標本数	3,000票	156票
抽出方法	無作為抽出	全職員
調査方法	郵送配布・回収	手渡し配布・回収
調査期間	平成21年7月24日（金）～ 平成21年8月18日（月）	平成21年8月3日（月）～ 平成21年8月7日（金）

## 3 回収率

	【住民アンケート】	【職員アンケート】
標本数	3,000票	156票
有効回収数	1,222票	156票
有効回収率	40.7%	100%

#### 4 報告書をみる際の注意事項

- 1 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 2 基数となるべき実数は調査数、Nとして掲載した。その際の比率は件数を100%として算出した。
- 3 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”な設問の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- 4 設問の選択肢が長い場合、本文及びグラフにおいて、作図の都合上簡略化している場合がある。
- 5 集計結果の比率は必ず誤差を含む。この誤差の幅は比率算出の基数（=有効回収数 = N）と与えられた比率（=回答比率 = P）によって異なり、無作為抽出の場合、次の式により算出できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{(P(1-P)) / N}$$

この公式によって算出された本調査の標準誤差は、以下の表のようになる。回答数(1,222)を基数(100%)としたとき、質問Aに対して「1」と回答した人が50.0%とすると、16歳以上の大井町民全体の中で「1」と回答した人の率は47.1%～52.9%の範囲内にあると考えられることになる。

クロス集計の場合は、性別・年齢などの属性によって基数が異なるが、公式から明らかのように、基数が小さいほど誤差が大きくなる。

回答比率	基数(N)	標準誤差	信頼範囲
50%	1,222	±2.9%	47.1～52.9%
40%または60%	1,222	±2.8%	37.2～42.8%または57.2～62.8%
30%または70%	1,222	±2.6%	27.4～32.6%または67.4～72.6%
20%または80%	1,222	±2.3%	17.7～22.3%または77.7～82.3%
10%または90%	1,222	±1.7%	8.3～11.7%または88.3～91.7%